

収量構成要素

栽植密度	18.2株/m ²
一株穂数	25本/株
一穂着粒数	67粒/穂
登熟歩合	85%
千粒重	23.0g
収量	600kg/10a

月旬	3月		4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月
	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上

病害虫防除	基幹防除		箱予防			カメムシ防除			カメムシ防除			カメムシ防除			カメムシ防除			カメムシ防除			カメムシ防除					
	種子消毒	テクリードCフロアブル200倍24時間浸透	ダコレート水和剤500倍	ダコレート100g	水50ℓ	苗箱100枚	カメムシ防除	畦畔・雑草地除草	カメムシ防除	カメムシ防除	カメムシ防除	カメムシ防除	カメムシ防除	カメムシ防除	カメムシ防除	カメムシ防除	カメムシ防除	カメムシ防除	カメムシ防除	カメムシ防除	カメムシ防除	カメムシ防除	カメムシ防除			
異常発生防除	苗立枯病		苗立枯病			苗立枯病			苗立枯病			苗立枯病			苗立枯病			苗立枯病			苗立枯病			苗立枯病		
	タチガレエースM液剤500倍	タチガレエース100cc	タチガレエースM液剤500倍	タチガレエース100cc	タチガレエース100cc	タチガレエースM液剤500倍	タチガレエース100cc	タチガレエースM液剤500倍	タチガレエース100cc	タチガレエースM液剤500倍	タチガレエース100cc	タチガレエースM液剤500倍	タチガレエース100cc	タチガレエースM液剤500倍	タチガレエース100cc	タチガレエースM液剤500倍	タチガレエース100cc	タチガレエースM液剤500倍	タチガレエース100cc	タチガレエースM液剤500倍	タチガレエース100cc	タチガレエースM液剤500倍	タチガレエース100cc			
異発生防除		異発生防除			異発生防除			異発生防除			異発生防除			異発生防除			異発生防除			異発生防除			異発生防除			
異発生防除		異発生防除			異発生防除			異発生防除			異発生防除			異発生防除			異発生防除			異発生防除			異発生防除			
異発生防除		異発生防除			異発生防除			異発生防除			異発生防除			異発生防除			異発生防除			異発生防除			異発生防除			

① 一般的な体系処理

代かき → 田植

メテオフロアブル 500mℓ/10a (散布日 月 日)

マーシエット粒剤 1kg/10a (散布日 月 日)

田植直後～5日

バッチリLX粒剤 1kg/10a (散布日 月 日)

田植後 5日～20日

ガンガン粒剤 1kg/10a (散布日 月 日)

田植後 5日～20日

シリウスエグザ粒剤 1kg/10a (散布日 月 日)

田植後 5日～20日

※初期剤を使わず一発処理可能。田植後15日頃までに。

② 省力除草方法 (動力散布機を使用しない)

代かき → 田植

代かきから田植まで7日以内

バッチリジャンボ 400g/10a (散布日 月 日)

田植後 ~20日

シリウスエグザ顆粒 80g/10a (散布日 月 日)

田植後 ~20日

止め水一週間! にしてください!!

③ 田植同時

代かき → 田植

代かきから田植まで7日以内

バッチリLX粒剤 1kg/10a (散布日 月 日)

シリウスエグザ粒剤 1kg/10a (散布日 月 日)

ガンガン粒剤 1kg/10a (散布日 月 日)

止め水一週間! にしてください!!

※強風時には田植同時散布を行わない。田植機に専用散布機が必要。

施肥体系	〈省力化一発体系〉						〈分施肥体系〉					
	肥料名	施肥料(10a)	N	P	K	肥料名	区分	施肥量(10a)	N	P	K	
基肥	BB新早生一発くん	35~45kg	8.4~10.8kg	5.2~6.7kg	2.8~3.6kg	BB056号	全層	35~40kg	3.5~4.0kg	8.8~10.0kg	5.6~6.4kg	
						BB003号	側条	35~40kg	3.5~4.0kg	7.0~8.0kg	4.6~5.2kg	
中間追肥	珪酸加里プレミア	40kg	—	—	8.0kg	珪酸加里プレミア	全層	40kg	—	—	8.0kg	
穂肥	BB有機入りいしかわライト550	40kg	—	—	8.0kg	有機入りいしかわ穂肥一発055	穂肥1回目(出穂前23日)	17kg	2.6kg	0.9kg	1.7kg	
						穂肥2回目(出穂前10日)	22kg	3.3kg	1.1kg	2.2kg		
						合計	39kg	5.9kg	2.0kg	3.9kg		
						有機入りいしかわ穂肥一発055	穂肥1回施用(出穂前23日)	27kg	5.4kg	1.4kg	4.1kg	

3月 うまい・きれい米づくりのスタートです。

☆営農のポイント

- ・種子消毒
テクリードCフロアブル 200倍 24時間浸漬
- ・浸種
水温と浸種期間

水温	7℃	10℃	15℃
浸種期間	18日間	13日間	9日間

- ・催芽
催芽温度 30℃
催芽程度 芽が1mm程度で、揃っている。

7月 生育環境を良くし、良質穂をつくる。 **紋枯病に注意**

☆営農のポイント

- ・穂肥 第1回穂肥診断の目安(出穂23日前)

	葉色	葉の状態	施用時期	施用量
条間が手前から20~30mくらいまで見える	3.9以下	立つひらつく	標準(1mm)	やや多く
	4.0	立つひらつく	標準(1mm) 1~2日遅く	標準量
	4.1以上	立つひらつく	1~2日遅く	減らす
条間が見えない	3.9以下	立つひらつく	標準(1mm) 1~2日遅く	標準量
	4.0	立つひらつく	標準(1mm) 1~2日遅く	減らす
	4.1以上	立つひらつく	1~2日遅く	減らす

- ・水管理
中干し後、3~4日間ごとに通水(間断通水) フェーン時には通水し、水分補給する。 夜間通水し、稲体の活力維持に努める(高夜温が続く場合)
- ・病害虫防除
葉いもち、紋枯病の発生に注意
葉いもち…ブラシン粉剤DL 4kg/10a
紋枯病…リンバー粒剤 3~4kg/10a
稲こうじ病…Zボルドー粉剤 3~4kg/10a
- ・畦畔・農道除草(カメムシ類対策)
集落ぐるみで行う。(7月10日まで)



幼穂形成期にはキチッと穂肥の入る「うち(条間)」の見える稲に仕上げよう。



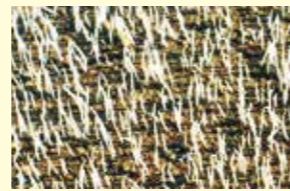
最近多発しているカメムシ

アカヒゲホソミドリカメムシ(成虫)

4月 米づくりは苗づくりから。

☆営農のポイント

- ・播種
播種量 120g/箱



120g播種で健苗育成

・育苗管理

	温度管理	灌 水
緑化期(1~4日後)	・昼20~25℃ ・夜15~20℃以上	・覆土の持ち上がりや箱のズミが白く乾いた時だけ灌水する。
硬化期前期(5~9日後)	・昼20℃前後 ・夜10℃以上	・午前10時頃までに行う ・晴天の日の朝は十分に行う ・雨天の日は床土の乾き具合に応じて
硬化期中期(10~15日後)	・昼15~20℃ ・夜10℃以上	・朝方ムラなく十分に行う
硬化期後期(16日~)	・外気温にならず 田植え8~10日前	・床土が乾きやすいので、朝昼2回必要な場合があるので注意。
田植え4~5日前	・夜間も換気	

※()内はハウス搬入後日数

8月 葉・茎・根の活力が決め手です。

☆営農のポイント

- ・水管理
出穂後は、「1日通水後、2~3日落水」を繰り返す。圃場では、少し足が沈む程度の湿潤状態を保つ(飽水管理) フェーン時や強風時は、早急に入水する。 地域ぐるみで計画的な通水に努める。

圃場の過乾燥は、着色米の要因!! こまめな水管理を!!

9月 うまい・きれいの総仕上げ。

☆営農のポイント

- ・水管理
刈り取り5日前まで、通水管理を続ける。
- ・適正な乾燥調整
乾燥中の穀温35℃以下を目安
こまめに水分を測定
肌ずれ米防止(水分過多や高温物は粉ずりしない)
適正な網目を使用(1.90mm LL網)

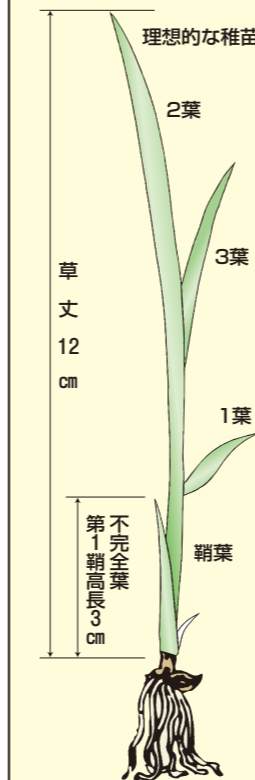


刈取適期のめやす

刈取 7~10日前

刈取適期

5月 苗づくりから稲づくりへ。



理想的な稚苗

☆営農のポイント

茎が増えやすいので、**過繁茂(できすぎ)に特に注意する。**

- ・田植時
植付株数60株を基本とする。植付本数3本~4本とし、1~2本の株があっても補植しない。
- ・田植直後
植傷みを防ぐため、深水管理とする。
- ・活着後
低温・強風時以外は浅水管理とする。
- ・田干し
5月下旬の温暖な日に2~3回落水する。
- ・溝切り準備
5月末に溝切り準備にとりかかる。

中干しは早めに!!(15~17本/株が開始時期) 出来過ぎは、乳白、倒伏の要因!!

10月 稲刈りあとから始まります。

☆営農のポイント

- ・土づくり(10月中旬までに耕起)
稲わらの全量鋤込み(稲わら600kgは、堆肥1tに相当)

「売れる米」づくりは土づくりから!!

BB早生一発くんは、省力化肥料ですが、穂肥の肥効部分には、リン酸・カリが含まれていません。毎年施用すると地力低下を招きますので、必ず収穫後は土づくりを実践して下さい。

肥料名	施用量(10a)
ダイナマイトソイル	100Kg
パワフル大地	60Kg

深耕(15cmをめざす)

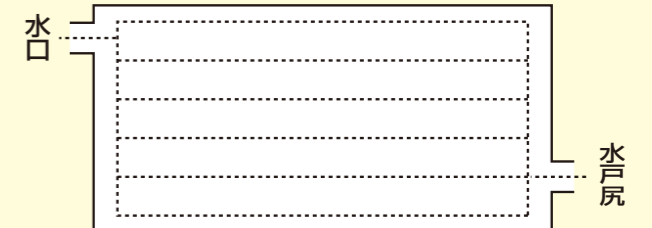
6月 今月が勝負どころ。

☆営農のポイント

- ・溝切り
6月3日頃から溝切りスタート



溝切りは、入水落水を容易にします。



※必ず溝は水口水戸尻を結ぶ

- ・中干し
6月末頃まで中干しを続ける。

- ・珪酸加里の施用
稲体の健全化のため、珪酸加里を40kg/10a施用する。

- ・畦畔・農道の除草
カメムシ類の生息場所をなくす。



トゲシロホシカメムシ(幼虫)

【畦畔で使用可能な除草剤一覧】 H . . . 現在

除草剤名	水 稲		
	耕 起 前	生育期間中	収 穫 後
ラウンドアップマックスロード	登録有無	○	○
	使用回数	1回 ※注1	2回 ※注1
	使用時期	耕起20~10日前	収穫前日まで
タッチダウンQ	登録有無	○	○
	使用回数	1回 ※注1	2回 ※注1
	使用時期	耕起5日前	収穫14日前まで
サンフーロン	登録有無	○	○
	使用回数	1回 ※注1	2回 ※注1
	使用時期	耕起20~10日前	収穫14日前まで
ザクサ液剤	登録有無	○	○
	使用回数	1回	2回
	使用時期	耕起前	収穫7日前まで
ブリグロックSL	登録有無	○	○
	使用回数	1回 ※注2	5回
	使用時期	耕起1ヶ月~直前	雑草生育期
カーメックス顆粒	登録有無	○	○
	使用回数	X	1回
	使用時期		雑草発生前
MCPソーダ塩	登録有無	○	○
	使用回数	X	3回
	使用時期		収穫14日前まで

※注1: ラウンドアップマックスロードとタッチダウンQ、サンフーロンには同一成分が含まれていますので、3割合わせての回数です。
※注2: ブリグロックSLは、収穫後もしくは耕起前のどちらか1回使用可。